

音戸の舟唄 紹介

「船頭可哀や 音戸の瀬戸で 一丈五尺の艦がしわる」

の名文句で始まる音戸の舟唄。ご存知の方も多いと思います。

大阪府の淀川三十石舟唄、山形県の最上川舟唄

と、ともに日本三大舟唄の一つと言われています。

古くから音戸の瀬戸で艦をこぐ船頭の間で歌い継がれていた歌を

現在の民謡にまとめあげ広めていったのが故高山訓昌(のりまさ)名人です。

高山名人の甥にあたる高山洋司君が同級生にということ

是非とも正調舟唄を聞きたいと依頼したところ、本人の快諾を得たので

ここで紹介したいと思います。

音戸の舟唄

(アードッコイドッコイ)

○ヤーレーノ 船頭可愛いや 音戸の瀬戸でヨー (アードッコイドッコイ)

一丈五尺の ヤーレノ 艦がしわるヨー (アードッコイドッコイ)

※以下 掛け声同様

○ヤーレーノ 船頭可愛いと 沖行く船にヨー 瀬戸の女郎衆が ヤーレノ 袖濡らすヨー

○ヤーレーノ 泣いてくれるな 出船の時にゃヨー 沖で艦櫂の ヤーレノ 手が洩るヨー

○ヤーレーノ 浮いた鷗の 夫婦の仲をヨー 情け知らずの ヤーレノ 伝馬船ヨー

○ヤーレーノ 安芸の宮島 廻れば七里ヨー 浦は七浦 ヤーレノ 七恵比寿ヨー

○ヤーレーノ ここは音戸の瀬戸 清盛塚のヨー岩に渦潮 ドンとヤーレノ ぶち当たるヨー